

「信仰年」と私たち（Ⅴ）

主任司祭 吉池 好高

「信仰年」は私たちにとって、私たちの信仰を振り返るようにとの呼びかけとして受け止めることが出来ます。先月号にも述べたことですが、私たちの信仰を振り返るためには、私たちの信者としての生きかたを振り返る前に、まずは、私たちのカトリック信者としての「信仰そのもの」を振り返って、あらためて確かめる必要があります。「信仰年」に当たって、カトリック教会のカテキズムを学び直しましょうとの前教皇様の呼びかけは、そのことを意図しているのです。

私たちは洗礼を受けることによって、カトリック信者として生き始めました。私たちが受けたカトリック教会の洗礼は、教会に伝えられてきたキリスト教の信仰を伝達する秘跡です。私たちはそれぞれの私たちなりの事情や理由があつて洗礼を受けることになったのですが、キリスト教を知らず、教会と縁がなかったなら、洗礼を受けてカトリック信者となることはなかったことでしょう。私たちの側からすれば、私たちが洗礼を受けたということは、私たちがキリスト教の信仰を受け入れて、カトリック信者となったということですが、もの心ついてから洗礼をお受けになった方々は、洗礼の時にそれ以上のことを経験したはずです。私たちは父と子と聖霊の御名によって洗礼を受けたのです。父と子と聖霊の神と出会って、その神の愛の中に受け入れていただけたことを経験したのです。洗礼を受けたいという、私たちのただその一心に応じて、神が私たちを受け入れてくださった安堵感を味わったのです。これが、カトリック信者となった私たちの信仰の原点です。そしてそれは、私たちの過去の経験の彼方に過ぎ去った原点であるに留まらず、私たちの信仰を常に新たに覚醒させる信仰のいのちの源泉なのです。

私たちは洗礼によって、キリスト教の信仰を受け入れたことによって、教会の秘跡である洗礼が意味していることの全てを受け入れ、私たちに注がれている神の愛を信じる者とされたのです。私たちは洗礼を受けることによって、私たちが信じる神の愛の中に受け入れられていることを知ったのです。